

3. 事故調査事例

事例1

平成 27 年 8 月 4 日(火) 21 時 15 分ごろ発生

錨泊中、ブルワークの上を歩いていた釣り客が落水して死亡

概要：本船は、船長(70 歳)が 1 人で乗り組み、釣り客 2 人を乗せ、釣りをして錨泊中、左舷側のブルワーク上面を移動していた釣り客 1 人が落水し、死亡した。

本船（遊漁船）

総トン数：4.44 トン
L r × B × D：9.80m × 2.30m × 0.90m

19:45 ごろ

本船は、錨泊して集魚灯を点灯し、甲板上を明るく照らした状態でいか釣りを開始した

船長は、釣り客 2 人に右舷側通路を使用するよう指示していたが、右舷側通路にもゴムホースやたも網等が置かれていた

21:15 ごろ

船長は、左舷側ブルワーク上面を船尾方に移動していた釣り客 A が視界から消えるように落水したのを目撃した

船長は、近くの係船用ロープを釣り客 A の近くに投げたが、つかまることができず、固型式救命胴衣を 3 個投げた

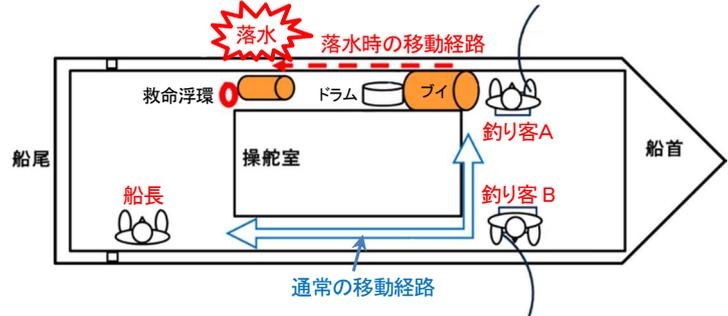
21:20 ごろ

船長と釣り客 B は、釣り客 A を引き揚げようとしたが、重くて引き揚げることができなかった

船長は、118 番通報と知人に救助を依頼し、釣り客 A は来援した僚船により引き揚げられて病院へ搬送されたが、死亡が確認された（死因：溺水）

船長は、釣り客 2 人が乗船する際、救命胴衣を着用するよう言ったが、2 人は着用せず、釣り客 A は落水時も着用していなかった（船長も着用せず）

乗船者等配置図



事故前、釣り客 A は右舷側通路を 2、3 回行き来した

釣り客 A は、操舵室の端等につかまらず、船長の方に顔を向けて話しかけながらブルワーク上を歩いていた落水した

右舷側

左舷側



左舷側通路には通行の妨げとなるドラム等の障害物があるので、ブイで通路の前後を塞いでいた

天気晴れ、風力 2 南風、海上平穏
潮流 西流、水温 約 25℃

再発防止に向けて（事故防止策）

- ・甲板上を移動する際の安全な通路を確保し、釣り客がブルワーク上面を移動することがないように指示を徹底すること。
- ・救命浮環を良好な状態に保ち、直ちに使用できるようにしておくこと。
- ・釣り客に救命胴衣を適切に着用させるとともに、自ら救命胴衣を着用して模範を示すよう努めること。



本事例の調査報告書は当委員会ホームページで公表しております。（平成 27(2015)年 11 月 26 日公表）

http://www.mlit.go.jp/jtsb/ship/rep-acci/2015/MA2015-12-2_2015tk0006.pdf